

## 多発性骨髄腫研究助成 2021 年度研究課題選考会総括

本研究助成事業は、骨髄腫患者さんとそのご家族、そして日本骨髄腫患者の会の活動を応援していただいている多くの方々のご厚意とご寄付により成り立っています。2002 年度に始まり、本年度は第 20 回研究助成となります。骨髄腫診療に携わる医師や研究者にとって、最も名誉ある研究助成の一つとなっています。今年度も審査員一同、「将来の骨髄腫患者さんのお役に立てる研究は何か」という視点で選考させていただきました。審査過程においては、上甲恭子さんをはじめ日本骨髄腫患者の会の皆様や会員オブザーバーの方にもご参加をお願いしました。

審査委員会では、応募課題 12 題について研究課題の「重要性」「計画・方法の妥当性」「獨創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評価について、5 名の選考委員により一次審査を行っていただきました。コロナ禍のため二次審査はウェブ会議で開催しました。本年度から申請書に「患者・家族委員のために」という研究概要の説明欄を設け、患者・家族の視点による評価も加えさせていただきました。今回も情熱のこもった優れた課題ばかりでしたが、最終的に本研究助成の趣旨に叶う 2 課題を採択させていただきました。採択した課題は以下のとおりです。

### 2021 年度多発性骨髄腫研究助成 助成額各 150 万円

千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部 三村 尚也 先生

「多発性骨髄腫における T 細胞疲弊の回復治療」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野 中村 信元 先生

「多発性骨髄腫の新規血清バイオマーカーの同定とその臨床的意義」

三村先生の課題は、自ら作出された遺伝子改変骨髄腫発症モデルマウスの体内で、T リンパ球が疲弊して腫瘍を攻撃できなくなっていることを見だし、その T リンパ球機能を回復させるための治療法を開発する研究です。一方、中村先生の課題は、予後の悪い骨髄腫細胞で活性化しているシグナル分子 TAK1 によって誘導され血中に流れている蛋白を同定し、貧血や骨病変への関与や予後予測バイオマーカーとしての意義を検討する研究です。2 課題とも獨創性が高く、近い将来の骨髄腫患者さんへの還元が期待されての採択となりました。

病態研究、治療研究を問わず、日夜奮闘されておられる諸先生から今後も本研究助成事業に多数の応募があり、研究成果が患者のみなさまのお役に立つことを祈っております。

2021 年 7 月

日本骨髄腫患者の会 多発性骨髄腫研究助成 選考委員会委員長

飯田 真介